

大阪学院大学大学院経済学研究科
理論経済学 A (ミクロ経済学)
中間テスト問題 (平成 12 年度)

2000 年 7 月
鬼木 甫

下記の設問 II ~ III の双方に解答せよ。なお、設問 I は例示であり、解答例を示す。

設問 I ~ III のそれぞれは、A と B から構成される。A では、何らか特定の「経済事象、経済活動」が記述されており、また B では、ミクロ経済学で使用されるグラフ (図形) 名が指定されている。

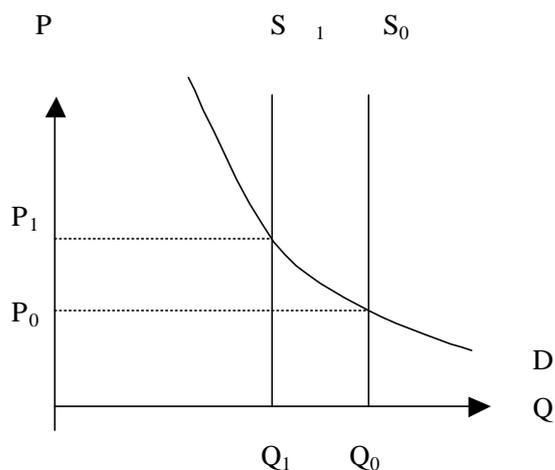
II ~ III のそれぞれについて、A の記述内容を、B で指定されたグラフを使って表現し、グラフを読むために必要であればそれに簡単な説明を与えよ。下記 I の設問・解答例を参考にせよ。

I. (例):

A. 「本年は台風のため、昨年よりも米 (こめ) の作柄が大幅に低下した。その結果、国内米価は平均して上昇した。」

B. 需要・供給曲線のグラフ

I への解答 (例):



記号説明：

添字 0：昨年、1：本年

Q：米の生産量（トン／年）

P：国内米価（円／トン）

D：米の需要曲線

S：米の供給曲線

グラフ説明：

今年の米の作柄の悪化は S 曲線の左方シフト (Q_0 → Q_1) であらわされるので、均衡米価は (P_0 → P_1) 上昇した。

ここから以降がテスト用設問

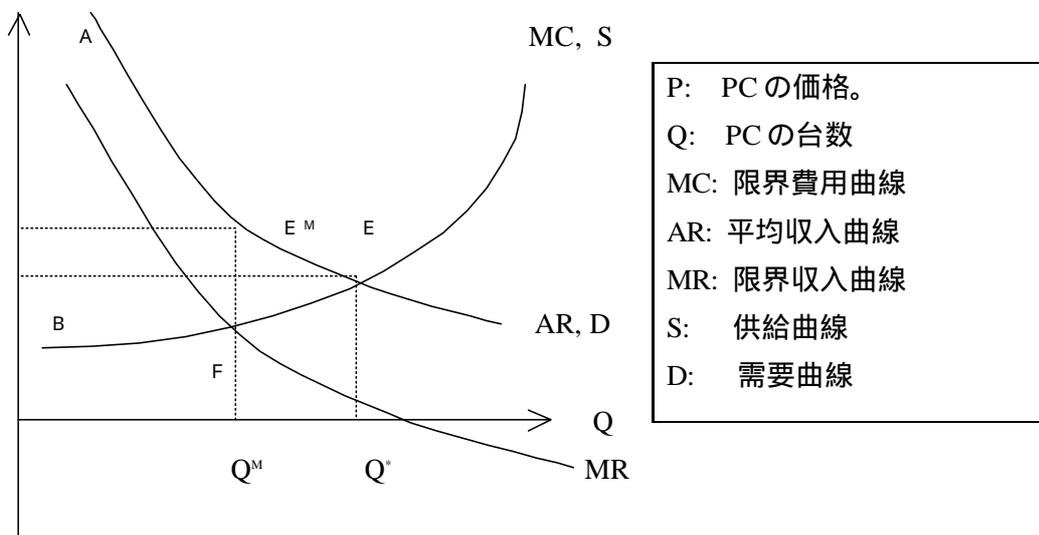
II. (50%):

- A. 「現在の日本のコンピュータ (PC) 市場では、国内メーカーの製品と米国製品が売られている。(ここまでは前置きの説明であって、問題に入らない。ここから以降が問題文である。) しかし 1992 - 93 年ごろまでは、米国製コンピュータで日本語が使えなかったため、コンピュータの輸入はゼロに近かった。国内メーカーでは、NEC の製品 (PC9800 型) が独占的地位を占め、高価格を維持していた。そのため、産業全体として DWL (Deadweight Loss、死荷重損失) を生じ、またユーザの便益は圧迫されていた。」
- B. 需要・供給曲線、限界費用曲線、平均・限界収入曲線のグラフ (同一グラフの異なる名前が入っている点に注意)

III. (50%):

- A. 「ところが 1993 年後半から米国製 PC で日本語が使えるようになった。当時の米国製 PC の価格は国内製 PC の価格の半分以下であったため、輸入が急増し、国内 PC の価格も対抗上大幅に切り下げられた。そのため PC のユーザ数が増大し、ユーザ便益の上昇と DWL の解消が実現され、国内の PC 市場の急速成長がはじまった。」
- B. 上記 II . B に加え、米国 PC の国内市場への供給曲線 (水平と仮定せよ) のグラフ

11.



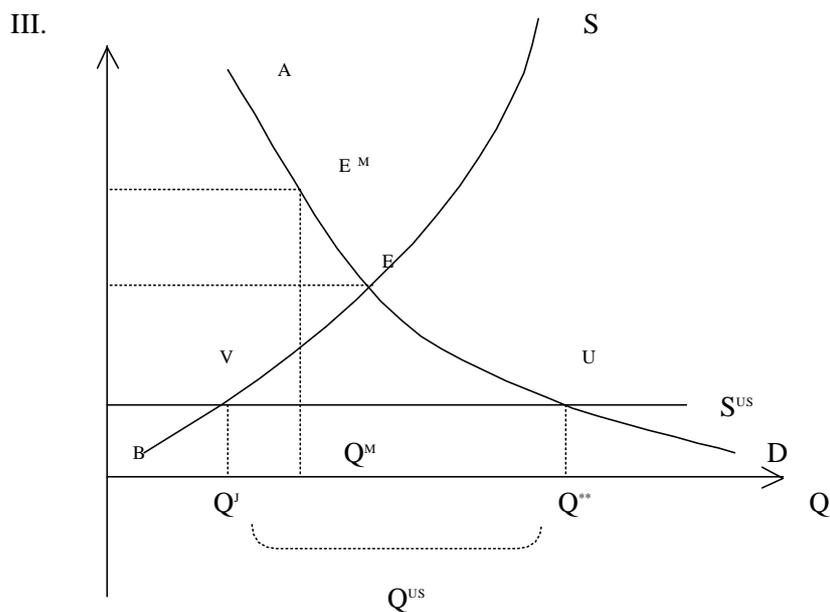
P^M : NEC の設定する独占価格 } (MR=MC になるように
 Q^M : NEC の供給量 } 選ぶ 利潤最大)

余剰:

消費者	A E ^M P ^M	<<	A E P [*]	
生産者	P ^M E ^M F	>	P [*] E B	
計	A E ^M F B	<	A E B	E ^M E F
	独占時	比較	最適時	DWL

独占供給者 (NEC) の余剰 (=利益) は「最適時」に比べて増加するが、消費者余剰が激減するため、社会的余剰 (計) は減少し、 $PWL = E^M E F$ が出る。

注 (解答例には入らない): 「最適時」は何らかの製作によって実現され得る状態 供給企業が独占力を持っているので、自動的に競争状態になるわけではない。



(輸入開始後の) 余剰 :

消費者	A U P^{US}
生産者	P^{US} V B
計	A U V B

S^{US} : 米国 PC の供給曲線
 P^{US} : 米国 PC の価格
 P^M : (輸入開始前の) 国内価格
 Q^M : (輸入開始前の) 国内生産
 Q^J : (輸入開始後の) 国内生産
 Q^{US} : (輸入開始後の) 輸入
 Q^{**} : (輸入開始後の) 総供給
 P^{US} : (輸入開始後の) 価格

輸入により価格低下 ($P^M > P^{US}$) 供給増大 ($Q^M < Q^{**}$) となり、消費者余剰は激増、生産者余剰は減少、総余剰 (計) は独占時より激増、(輸入開始前の「最適時」と比べても $E - V - U$ の三角形の分だけ増加した)